2013年大学入試センター試験 【講評(速報)】 倫理

総論

小問数(38問)には変更はなかったが、大問の数は5題から4題に減少した。2012年の、第1問「青年期」、第2問「源流思想」、第3問「日本思想」、第4問「西洋思想」、第5問「現代社会の課題」という構成から、第1問が「青年期・現代社会の課題」(11問, 28点)と2012年の第1問(3問, 8点)と第5問(8問, 20点)とを併せた出題に変わった。

問われている知識については「青年期」では自我同一性の確立や性格の把握、発達課題、「現代社会の課題」では“情報技術の発達による人との関わり”を主題とした対話文から現代に生きる人間の倫理と課題、「源流思想」においてもソクラテス、ブッダ、孔子、イエス、ムハンマドなど頻出事項からの出題であった。「日本思想」では『古事記』や『日本霊異記』の内容について問う良問も見られたが、近世や近代の思想家についての知識を問う問題は、頻出ではない人物の思想が取り上げられた。「西洋思想」では合理論・観念論の思想家、社会契約説の思想家、功利主義・実存主義の思想家が取り上げられた。

大問の内容

第1問 青年期・現代社会：ライフサイクルと発達課題・情報化社会の課題(28点)

情報技術、特にインターネットの普及と社会や個人への影響についての対話文に関連する自己の出題。問1・2は情報技術の発達の功罪を問うもので「現代社会の課題」からの出題。問3～6はライフサイクルと発達課題からの出題。問6は統計資料の読み取り、問11は本文の趣旨を問う出題。問7～9は、フランクフルト学派、分析学派など馴染みの薄い思想家が出題された。

第2問 源流思想：苦しみや悲しみとの対峙(24点)

プラトン、パウロ、アウグスティヌス、ブッダ、孔子や孟子などギリシア・ローマ、インド、中国の源流思想を代表する人物が唱えた説、考え方についての理解を問う問題。問6はイスラーム教の「五行」の知識を問う良問。最後の問9は、例年出題されている本文の趣旨を問う出題形式。

第3問 日本思想：日本の思考の筋道「理」の変遷(24点)

「理」の変遷を主題として、関連する古典の内容、思想家の思想についての知識などを問う問題。『古事記』や『日本霊異記』の内容に関する知識問題は標準的、近世や近代の思想家についての知識を問う問題は、馴染みの薄い人物が出題された。

第4問 西洋思想：西洋思想における批判の意味(24点)

近代以降の思想家の批判についてどのように捉えてきたのかという主題のもと、フランス＝ベーコン、ヴォルテール、カント、ミル、マルクス、ハイデッガーらの思想の内容を問う問題。それぞれの思想家については基本的事項を中心に問われている。